

The basis of all learning lies in philosophy

2007年、東洋大学は創立120周年を迎えました。私たちはいま、120年の伝統と知の資産を継承しつつ、次世代に向けて何ができ、何をすべきなのでしょう。このシリーズでは東洋大学のこれまでの歩みを紹介し、いまでも息づく精神をもう一度見つめ直しながら四半世紀の大きな節目となる「125周年」(2012年)へのカウントダウンをスタートします。Part では、第二次世界大戦頃を中心に紹介します。

Part 1920(大正9)年～1960(昭和35)年
廃墟からの再出発 ～総合大学を目指して

年	日本の歴史	東洋大学の歩み
大正9(1920)年	国際連盟に加入	私立東洋大学を「東洋大学」に改称
大正11(1922)年	ワシントン会議	
大正12(1923)年	関東大震災	
大正13(1924)年		東洋大学校歌を制定
大正14(1925)年	治安維持法公布	
昭和3(1928)年		大学令による東洋大学の設置認可 文学部を創設
昭和6(1931)年	満州事変	
昭和12(1937)年	日中戦争	創立50周年記念式典を挙げる
昭和16(1941)年	太平洋戦争始まる	
昭和20(1945)年	広島・長崎に原爆投下、ポツダム宣言受諾	空襲により木造校舎を焼失し、図書館・講堂・鉄筋校舎も罹災
昭和21(1946)年	日本国憲法公布	
昭和24(1949)年		新制大学へ移行 文学部を設置
昭和25(1950)年	朝鮮戦争	経済学部を設置 短期大学部第2部設置
昭和26(1951)年	サンフランシスコで対日平和条約・日米安全保障条約調印	財団法人東洋大学から学校法人東洋大学へ組織変更 文経学部(第2部)を設置(昭和27年廃止)
昭和27(1952)年		大学院設置 法経学部(第2部)を設置(昭和32年廃止)
昭和31(1956)年		法学部を設置
昭和34(1959)年		社会学部を設置

トピックス

戦時下の東洋大学

日本が敗戦にいたる戦争末期には、東洋大学の学生も、軍事工場や戦地に否応なく動員され、平常の学生生活は望み得ない状況であった。現在確認されている本学からの学徒出陣による戦没者は178名。大都市を狙ったB29機による空襲で本学の周辺は焼け野原となり、どの校舎も廃墟と化した。今も世界に戦火は絶えない。私たちは過去の歴史に学び、平和を希求しなければならぬ。



終戦後、崩れかかった教室には宿なしの学生が住みつき、いつの間にか寮となったという(昭和28年に廃寮)。...ふんどしを洗った洗面器で湯を沸かし、そこに茶の葉を投げ込み、それぞれの茶碗ですくって飲む。教科書は醤油で染み、ねぎがしおりのように挟まっていた。しかしそんな最悪の環境の中で、皆は真剣に人生を語り、勉強もした(その様相から「岩窟」と呼ばれた「鶏声寮」の記述。『東洋大学校友会報』第41号より)。写真は当時の学生生活の様子。



平成17年に戦後60年と校友会創立110周年を記念して校友会より寄贈された「平和祈念の碑」(白山キャンパス浦水の森に建立)。「アジアの人々との真の共生を目指し、世界の平和を祈念する」との言葉が刻まれている。

トピックス

新制大学の発足と、学園復興の努力

戦後の東洋大学はそれまでの文学部のみではなく、「総合大学」として大きく発展させることを再生の鍵に据えた。貧困を極めた状況の中、本学が昭和24年の新制大学発足からわずか7年間に4学部、短期大学部、大学院1研究科を持つまでになったことは、比類なき努力の表れだろう。総合大学として拡大するにつれ、狭大な校地からスタートした本学は長い歴史の中で常に校地の問題と対峙し、その時代に即した方法で校地を拡張し設備の充実に努めてきた。現在も、4キャンパスの活用方法が最重要課題として検討されている。



校舎の再興とともに、学生募集にも尽力。特に昭和34年に設置された社会学部は学内にテレビ放送施設を設置(国内の大学初の試み)。マスコミ関係への就職を志望する入学者に強くアピールし、社会の耳目を驚かせた。その社会学部は2年後に創立50周年を迎える。

現在までの「総合大学」としての本学の歩みは、戦災の廃墟の中から必死に立ち上がり、私立大学の地位を向上させるために築き上げた歴史でもある。

歴史を知ると、今が分かる。次号210号ではPart 1961年～1987年の東洋大学を紹介します。

大正期には多くの部活動が誕生。現在、部・サークル活動に参加する学生は...

Pick UP



春季リーグ優勝の硬式野球部も大正11年に創部

大学に届け出のある部・サークルに加入している学生の数

10,677名

4キャンパス合計 平成19年10月現在

文化系運動系含め大学に届出のある部・サークルの数は約400。実際には思い思いのサークルが無数に存在するに違いない。近年、新しく誕生するサークルには進路を見据えた「資格取得系」、21世紀の課題である「環境系」、少人数でのプレイが可能な「バスケット」「フットサル」などが目立つとか。サークルの栄枯盛衰には、時代性が映し出される。